

柿園管理情報 第5号

令和7年7月23日
城端果樹協会
砺波農林振興センター

1 概況

三社柿の結実量は園地や樹によりばらつきがありますが、産地全体の結実量は確保されているとみられます。果実肥大は、満開後51日（本年7/18）時点での果実横径が37.9mm（前年38.4mm、平年39.0mm）であり、平年よりやや小さい状況です。

2 防除について

- ・8月上旬はカイガラムシ類、下旬はイラガ類の防除適期です。
- ・本年はカイガラムシ類の発生がやや多く、発生時期もやや早い状況です。特に、摘果作業時に果実のヘタ付近等に発生が認められた園地では8月1日頃の薬剤散布を確実に実施してください。
- ・薬剤は散布ムラの無いよう、ていねいに十分量を散布（※1）してください。
- ・徒長枝等、新梢の炭そ病斑（写真）は果実への感染源となりますので、見つけ次第、直ちに切り取って園地外に持ち出してください。

※1：農薬散布時は周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯等、十分注意してください。

：薬害の出やすい高温時を避け、朝や夕方の涼しい時間帯に散布してください。

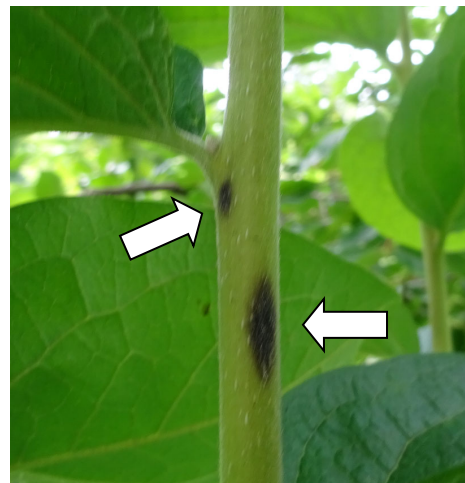


写真 新梢の炭そ病斑

散布時期	対象病虫害	散布薬剤	使用倍率	100リットル 当り薬量	10a当り 散布量
8月1日頃	カイガラムシ類 ・カメムシ類	アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	50g	400 ^{リットル}
8月17日頃	炭そ病 カキノヘタムシガ ・イラガ類	ジマンダイセン水和剤 オリオン水和剤40	600倍 1,000倍	166g 100g	400 ^{リットル}

畦畔柿では、トップジンM水和剤を9月中旬頃および10月中旬頃に散布する計画です（散布時期は次号の管理情報でお知らせします）。

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立や農業機械等での作業時の安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。

問い合わせ先：富山県砺波農林振興センター 園芸振興班 徳満 TEL32-8112